



次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

(50点)

1 今いまは昔むかし、ある長受領おとぎの家に、祇園ぎえんの別当べつたうに戒秀けいしゅうといひける定額じやうがく、忍しのびて通とほひけり。守かみ、この事をほの知りたりけれども、知らず顔かほにて過あやぐしける程ほどに、守出しゅしゅつでたりける間に、戒秀けいしゅう入り替かりて入り居ゐて、したり顔かほにふるまひける程ほどに、守返しゅへんり来きたりけるに、怪あやしく主ぬしも女房にようぼうどももすずるひたる気色きしき見みえければ、守かみ「思おもふに、アあさにこそはあらめ」と思おもひて、奥おくの方かたに入りて見みれば、唐櫃からびつの有あるに、例れいならず鎖しじやう差さしたり。「定さだめて、これに入れて鎖しじやうを差さしたるなめり」と心得こころえて、長ながしき侍さむらい一人ひとりを呼よびて、夫おつ二人ふたりを召まかせて、「この唐櫃からびつ、只今ただいま祇園ぎえんに持もて参まりて誦ずきやう經きやうにして来きたれ」といひて、立た文ぶんを持もたせて唐櫃からびつを搔かき出だして侍さむらいに取とらせつれば、侍さむらい、夫おつに、差さし担たんはせて出でて行きぬ。しかれば主ぬしの女めも女房にようぼうどもも、あさましき気色きしきはあれども、てももの言ことはず。

10 しかる間ま、侍さむらいこの唐櫃からびつを祇園ぎえんに持もて参まりたれば、僧そうども出でて来きて、これはやむなことなき財たからなめり、と思おもひて、「別当べつたうにとく申ませ。イかねてはえ開ひらけし」と言いひつつ、别当べつたうに案内あんないを言いはせに遣つかりて待まちつに、やや久ひさしく「え尋たずね会あひ奉ほうらず」と忙いそしく侍さむらいるぞ」と言いへば、僧そうども「いかがあるべき」と言いひあつかふに、唐櫃からびつの中に細こまくわびしげなる音こゑを以もて、「只所ただしよ司し開ひらきにせよ」と言いふ音こゑあり。僧そうども誦ずきやう經きやうの使つかの侍さむらいもこれを聞ききて、エあさましく思おもひ合あへること限りなし。然しかれども、さてあるべきことならねば、恐おそづ恐おそづ唐櫃からびつを開ひらけつ。見みれば、别当べつたう唐櫃からびつより頭あたまを指さし出でたり。僧そうどもこれを見て目口めぐちて皆みな立ち去いりにけり。誦ずきやう經きやうの使つかも逃にげて返かへりけり。しかる間ま、别当べつたうは唐櫃からびつより出でて走はり隠かくれにけり。

15 15 これを思おもふに、守かみ「戒秀けいしゅうを引き出だして、踏ふみ蹴くるも聞きき耳みみ見み苦しかりなむ。只ただ恥はを見みせむ」と思おもひける、いと賢さとしき事ことなりかし。戒秀けいしゅうもとより極たぎめたる物言ものことばひにてありければ、唐櫃からびつのうちにてかくいふなりけり。

世にこの事聞こえて、オをかしくしたりとぞ讚めけるとなむ語り伝へたとや。

〔『今昔物語集』〕

〔注〕○長受領——年配で経験豊かな受領（＝諸国の長官）。

○祇園——延暦寺の別院、祇園社。

○別当——寺務を司る僧。

○定額——官（政府）によって一定数置かれた僧。定額僧。

○すずろひたる——慌てている。

○夫——人夫。

○誦経——誦経してもらうためのお布施。

○立文——正式の書状。

○て——『今昔物語集』特有の意識的欠字。ℓ7は「あきれ」が想定される。ℓ14の欠字は「はだかり」（＝

いっばいに開け）かという。

○あつかふ——処置に苦しむ。

○所司——別当を補佐する僧。

○聞き耳——外聞。

設問 (一) 傍線部イ・ウ・エを現代語訳せよ。

(24点)

(二) 「さ」こそはあらめ」(傍線部ア)とはどういうことか、説明せよ。

(10点)

(三) 「をかしくしたり」(傍線部オ)とあるが、何がなぜ「をかし」なのか、わかりやすく説明せよ。

(16点)